

「ぼうし売りが来た！」

1学期の保育の視点②より

— 自分のしたい遊びを自分で選び取り、満足するまでじっくりと取り組む。

また、遊びの種類や体験を広げる時を持つ —

今、年長組では『おさるとぼうしうり』という絵本の世界をごっこ遊びとして楽しんでいます。帽子売りは、自分の頭に帽子を積み重ねて、背筋をピンとして売り歩きます。帽子売りが木陰でうとうとしていると、サルたちがやって来てこっそり帽子をとって行ってしまいます。気が付いた帽子売りが怒って「かえせ！」と手を振り上げると、サルたちは帽子売りの真似をして「ツーツーツー」と言いながら、手を振り上げる・・・というやりとりが続きます。

ある朝私は、保育室の隅についたと、低い台をいくつか置いておきました。私が「猿山に、サルは居ないようだよ…」と独り言をつぶやいていると、「ねえ、猿山だって」「サルになってみようか」など言いながら、子どもたちが集まって来ました。「サルって何食べる？」「バナナとか好きなんじゃない？」と、紙でバナナやりんごを作っています。10匹ほどのサルが集まり、「キキキ」「ツーツーツー」とにぎやかです。私は、麦わら帽子10個を頭の上に高く積んで乗せ、絵本の中のせりふである「ぼうし、ぼうし～、1つ50円」と言いながら歩き回りました。すると、「あ、ぼうし屋が来たよ！」「ちょっと隠れて！」とサルたちがざわざわとし始め、帽子売りの登場にわくわくしている様子が伝わって来ました。

こうして、ごっこ遊びをすすめている中で、私はAちゃん、Bちゃん、Cちゃんのことを心に留めていました。Aちゃんたちはおにごっこや泥だんご作りなどをよく楽しんでいます。劇やごっこ遊びには自ら入って来ることが少ない子どもたちでした。私はこの子どもたちに、お話の世界の楽しさを知らせたいと思い、喜んで入って来られるタイミングをとらえて声を掛けていました。その日も「Aちゃん、ここね、サルたちの住んでいる猿山なんですって」と声を掛けましたが、「ふーん」と言い、横目でちらりとサルたちの様子を見ているだけでした。そして、他の子どもたちのするサルたちを見て「ふふふ」と笑顔になりながら、外に行ってしまいました。



『おさるとぼうしうり』の遊びが始まって一週間ほど経った日のこと、Aちゃんたちはなかまと、ホールの積み木を高く重ねていました。私は「あら、面白いかたちね。山のように見えるわ。積み木の上に乗れるのね」と話すと、Aちゃんは、はっとした顔をしました。そして、隣に居るBちゃんやCちゃん、他のなかまに小さな声で、「ねえねえ、ここさ、猿山ってことにしない？」と言

ました。その途端、Bちゃん、Cちゃんにはやりとし、「キキー！」と言いながら、積み木の上を歩きまわりました。私は、Aちゃんたちがお互いに毛繕いをしたり、ボリボリと体をかいたり、体を丸めるようにして座ったりなど、思い思いにサルになっている姿を嬉しく思いました。私は急いで保育室から帽子を沢山頭に乘せて、「ぼうし〜ぼうし〜、1つ50円」と言いながらホールへ歩いて行きました。その声を聞きつけて「やった！帽子売りが来たぞ！」「ツーツーツー！」と応えます。子どもたちが『おさるとぼうしうり』の話への期待を持っていたことが伝わって来ました。私はこの日、この子どもたちとお話の世界を十分に楽しみました。次の日も次の日も、ホールや庭でサルになって帽子売りが来るのを待ち、この話をするのをたのしみにしています。

『おさるとぼうしうり』は色々な子どもたちが入って、共有の遊びとなり、続いています。

電動糸のこぎりを体験する

1学期の保育の視点②より

子どもたちが年長組になったら出来ることとして待っていた遊びの一つが、電動糸のこぎりです。4月早々から木工室に入って来ると、「先生、これやりたいな」と電動糸のこぎりを指さして言う子どもたちがいました。私はその度に「準備が出来るまで、少し待ってね」と伝えていました。5月の連休明けより、「電動糸のこぎりをしたい」と言ってきた子どもから順に、直線を切ってみることにしました。私たちは手を添えてコツを伝えます。

「切っていると、ジジジジって手に伝わって来るね」「なんだかくすぐったいね」など子どもたちで話しています。まだ慣れない子どもたちにとっては、緊張もあるのでしょうか。電動糸のこぎりです。切った板を手に取り、しげしげと見つめ、ため息とも感嘆ともとれる「はあー」と声にならない声をもらしている子どももいます。ある朝、まだ電動糸のこぎりを体験していないDちゃんが砂場で遊んでいたのが、「Dちゃん、今、電動糸のこぎり空いていますよ」と私は声をかけました。Dちゃんは「音がね〜、ちょっと怖いんだよね」と言います。「そうなのね。それなら、私が切る様子を見てみる？」と聞くと「うん」とうなずきます。そしてEちゃんと一緒に木工室にやって来ました。DちゃんもEちゃんもドキドキしている様子です。「ここにね、のこぎりの刃がついているのよ」と伝えると、食い入るように二人は見ています。次に私は、板をのせずに電動糸のこぎりだけを動かしてみました。「あんまり音しないね」と話しています。次に私は板をのせ切ってみました。ガタガタガタと音を立てて切りきると、「先生すごーい！」との声が上がります。「Dちゃん、次どうぞ。一緒に切りましょう」と私はDちゃんを背中から抱くようにして支え、一緒に切ってみました。とっても真剣です。切りきると「うれしい、うれしい」と言って、体をぴよんぴよん弾ませています。Eちゃんも切ってみることにしました。Eちゃんは切っている時、息をするのも忘れていたようで、切りきった時には「はーはーはー」と肩で息をしていました。「切れたー」とEちゃんも嬉しそうです。

二人は、「もっと電動糸のこぎりやりたくなっちゃった」と、その後も直線を繰り返し切りました。

子どもたちは、直線を十分に切ることを体験した後、曲線を切ることに移っていきます。これまでやってきた、のこぎりをひいて板を切ることに、電動糸のこぎりでの曲線を切ることが加わる事で、ますます創り出すことが楽しくなっていくことでしょう。

(嶋原 百合)